

色彩言語

セラピューティック・ランゲージ編

の編集

“生活文脈”から色を理解することで、あなたは、あなた自身の言葉をもって、クリエイティブに『色彩辞書』を編纂することができます。



色の意味空間をとらえ、セラピューティックに言葉を紡ぎましょう。

この講座では、**色彩情報とクリエイティブな関わり**をもちながら、**セラピューティックに言葉を紡ぐための編集術**について学びます。

そのためにクラスでは、**色彩を表す言葉**に注目しています。そこから、「**色はどのように人と関わっているのか?**」ということについて、じっくりと本質的に考えていきます。

この講座の特徴は、**特定のメソッドやシステムに偏ることなく**、色と人との関わりを取り上げているということです。このような学び方は、**普遍的なエッセンスと、特**

殊なエッセンスとの差異に気づく能力を養うことを可能にします。

このような営みは、場面場面に応じた**色彩言語のセレクト**を可能にします。それに加え、生活体験に因んだあなた自身の色（私はこのことを“生活文脈”でとらえた色世界と呼んでいます）を、色を伝える言葉として発話することも可能にします。

じっくりと学ぶ性質のクラスデザインになっているため、「癒やされたい」「綺麗になりたい」など、“目的のための色”について知りたい方には不向きかもしれません。

一方で、**純粋に「色について深く知りたい」という方にとっては、**

私たちと色との歴史を通じて、**色の世界の奥深さ**を体得していただくことが可能です。

私たちの人生のあらゆるシーン・出来事を例える言葉としても用いることができる**色彩言語は“人”を理解するという営みにおいて、重要な役割を果たしている**といえるでしょう。

“色の意味”を理解することは、“人の営み”を理解することでもあるのです。

このご案内は『色彩情報の編集講座 ~セラピューティック・ランゲージ編~ 1st Zone (初級)』に関してお伝えしています。^^

What THERAPEUTIC LANGUAGE is ??????????



2013

『THERAPEUTIC LANGUAGE (セラピューティック・ランゲージ)』とは、**コミュニケーションのための言葉の使い方**を示す造語です。イン・ルーチェでは、コミュニケーションを、従来の「伝える・伝わる」という片側通的な捉え方から、相互作用による“合意形成 (受容と理解)”と位置づけています。「セラピューティック」には、“**健康維持に役立つ**”という意味も含まれています。イン・ルーチェでは“**コミュニケーション不全は健康不全のはじまり**”との考えから、**セラピューティックな色彩言語**を活用した新しいコミュニケーションスタイルを提案しています。

色と人

講座では、私たちが、社会生活（日常体験）のなかで、色をどのように言語に置き換えてきたか（色名）という、人間の「色彩情報処理」の営みに基づいて、色と言葉との関係を学んでいきます。民族や宗教などの垣根を越えた、人と色との関わりに降り、学ぶことは、より一層スケールの大きい「色彩観」を培うことを促すでしょう。

1st Zone

7

1st Zoneでは、赤、黄、緑、青、茶、白、黒の7色を取り上げます。

2

この7色は私たち人間が、社会生活を営むうえで、何よりも不可欠な7色でした。そして始まりは2色でした。

8

全8回から成る1st Zoneによって、あなたは、人の営みにおける色の在り方の基礎を習得していることでしょう。

2nd Zone

4

2nd Zoneでは、ピンク、オレンジ、紫、グレイの4色を取り上げます。

11

2nd Zoneまでに学ぶ11色は諸言語に共通しています。いわば、「色の認識」における人類の進化のプロセスです。

5

全5回から成る2nd Zoneによって、あなたは、色彩言語のキー(鍵)概念を手中に収めていることでしょう。

3rd Zone

6

3rd Zoneでは、文化・文明によって異なる発達を見せた6色について取り上げます。

12

学問分野でお馴染みの12色の世界観と、2nd Zoneまでの11色の世界観とでは、存在するリアリティが異なります。

7

全7回から成る3rd Zoneを終える頃には、あなたは既存の色彩辞書をクリエイティブに編纂していることでしょう。

色の存在に気づき、言葉に置き換える...人はこの営みによって、色のエネルギーを日常生活に反映させてきました。

無数にある色を見分け、分類し、名称を与えるという行為は、脳の高次の働きによるものです。

眼で受容された光を、ある種の色彩として知覚することは、言うならば動物的な営みの一環で、他の動物も備える機能です。

けれども、微細に見分けた色に言葉を与える、あるいは、それらの色を分類するという行為は、人間特有の営みです。そして、ここには文化や文明が反映されるケースもあります。

この文化と文明との絡みにより、色の意味に多元性が生まれます。

「人と色との関わり」は、この動物としての本来の機能と、人として獲得した機能との間に存在していま

す。そして、このことは、色がユニバーサル（宇宙的・世界的）ランゲージ、あるいはノンバーバル（非言語的）ランゲージとしての地位を獲得することの一端を担っていると言えるでしょう。

本能と理性のあいだ

この「本能と理性のあいだ」という概念に意識的であることは、日常社会での体験と色彩言語とを関連づける場合において、とても有益なことといえるでしょう。「本能」は「習性」と言い換えても構いません。

この「本能」と「理性」と「あいだ」が在るからこそ、色の意味は階層性をもつようになります。

そして、この多元性と階層性の理解こそが、コミュニケーションにおける相互理解を促すために、必要不可欠なエッセンスとなっているのです。



人がどのように色を認識し、言葉に託してきたかを知ることは、あなたが、自分が認識している日常の色彩体験を、そのまま色彩言語として換言することを営むことが可能なことであることを十二分に認識させてくれることでしょう。それこそが、クリエイティブな言語表現を可能にするうえで、大切な学びと理解に他なりません。

人と色情報 紡ぎ方と編集

1st Zone

単色をつむぎます。
全ての編集の基礎です。

まずは、同一次元上でつむぎます。作文の文字数を増やすような感覚で。

つぎに二つの次元をつないでみましょう。話が少し立体的になりますね。

二次元空間は行ったり来たりできますよ。

2nd Zone

2色をつむいでみましょう。まずは近い関係の2色を紡いでみましょう

次は遠い関係の2色です。どどんと“言葉を配色”してみましょう。

さらに3つの次元の行き来にも挑戦です。

3rd Zone

今度はネガティブな意味を織り交ぜます。

ネガティブとポジティブを行ったり来たり...これが私たちの生の色を紡ぐということです。

色の意味空間はバウムクーヘンのようなものです。

多層多元な色の意味世界

色の意味の階層性と、色の意味の多元性については、色々な解釈が可能。あるいは、私たち1人1人が関わる色の分野によって異なるもの、ということもできるでしょう。



『セラピューティック・ランゲージ編』では、ストレスケアの観点から、色の意味空間を3つの階層と4つの次元からとらえています。

3つの階層（レイヤー）

3つの階層では、私たち人間と色との関わり（色彩体験）を3分類しています。

- ・根源的体験
- ・社会的体験
- ・個人的体験

通常、体験は感情を伴います。3層の体験には、それぞれの感情が含まれます。これらを紐解き、結び直すことは、編集の基本作業の1つです。

4つの次元（ディメンジョン）

4つの次元は、WHO（世界保健機構）が提唱する健康の定義（修正案を含む）と、近年の健康に対する一般認識が反映された4分類です。

- ・肉体の次元
- ・感情の次元
- ・思考の次元
- ・スピリットの次元

これらの4つの次元には、それぞれの次元に特有な色彩言語があります。しかし通常は、それらは意識されることなく用いられています。それらを分類・整理し、さらには橋をかけたい次元と次元（現状の次元と向きたい次元）をつなぐことは、編集の醍醐味の1つといえるでしょう。

「色彩言語の編纂」では3レイヤー×4ディメンジョンを一步一步着実に学ぶことができます。

配色指導において言われていることの一つに「一般的には3色以上の配色はできない」とうことがあります。「できない」というのは、いささか極端な言い方なのですが、これはある意味において的を射ています。

なぜならば、3つ以上の要素が組み合わさると、その世界に立体感が生まれるからです。

一方で、私たちは、三次元空間に済みながら、二次元的な情報処理に慣れ親しんでいます。そのため、3つ以上の要素を組み上げるということに不慣れであることが多いのです。

もしあなたが、色彩言語とクリエイティブに関わることを望むのであれば、3つ以上の属性を組み上げることに、是非ともチャレンジすることをお勧めします。

2nd Zone, 3rd Zone とステージが上がるにつれて、参加者の指向する領域における色彩の意味との融合を図っていきます。

色と人、人と言語

～学びのプロセス～

その1：私たち人間が、どのように色と関わってきたか、その進化のプロセスを学びます。

時計の針をどれ位巻き戻してみましようか？ それほどに、古代から、人は色に魅せられ、色の世界を探求してきたのです。まずはじっくりと、自分の中にも脈々と宿る、人類の色彩のルーツを探ります。



その2：色と言語との関係ならびに色の意味空間について学びます。

言葉の意味というのは、実はとても曖昧です。その意味において、色と似ていると言えるのかも知れません。厳密な枠組みなどないのです。その事実を認識したうえで、無意識的に、あるいは意識的に枠組みを設けているのです。大切なことは、おそれずに、自分でも枠組みを設けてみる意識のスタンスです。



その3：階層と次元を意識した色彩言語の紡ぎ方を学びます。

紡ぐとは、単に言葉を羅列することではありません。わき上がってきた言葉に転換・変換という行為を加えることです。ステップBYステップのレッスンで、着実に力を養っていきます。

色彩情報の編集

セラピューティック・ランゲージ編

1st Zone

第1回 2013.10.20

初回で取り上げる色は何でしょう？
（私の中では既に決まっていますが、ここでは秘密です）初回では、人が、どのように色を表してきたかについて学びます。また最近のセラピースタイルの潮流についてもお伝えします。

第2回 2013.11.17

1回目を終えるころには、2回目以降で学ぶ色の順番について理解がはじまっています。この回では、人と言葉との関わりについて学び、色と言葉の対応について考察します。

第3回 2013.11.15

毎回1色づつテーマカラーを学び、それに続いて、この回では、色の意味空間について学びます。色彩言語がいかにバラエティに富んでいるかを学ぶことができます。

第4回 2014.01.19

テーマカラーの学びに続き、色の階層性について学びます。一見すると、難しい印象を抱くかもしれませんが、一步一步進めれば大丈夫です。色の階層性への理解は、あなたの色彩ストーリーに幅をもたせることでしょう。

第5回 2014.02.16

テーマカラーの学びに続き、色の次元性について学びます。ここは、繊細かつ複雑な内容ですが、文字通り『セラピューティック』的な色彩言語を発話したい人にとっては、避けて通ることはできない要所です。しっかりとサポートしますので、是非ともガッツリ取り組みましょう。

第6回 2014.03.16

テーマカラーの学びに続き、いよいよ編集稽古に入ります。メソッド（学習体系）に従って、まずは基本の型を身につけていきます。

第7回 2014.04.20

最終のテーマカラーは何でしょう？
（実はこれについてはクラスの流れに任せようと思っています）どうぞお楽しみにも。編集稽古では、基本のメソッドに1オプションを加えます。あなた自身の言葉を加えることも始めます。

第8回 2014.05.18

お疲れ様でした。最終回です。まとめの講義をします。直前までのクラスを通じて、学びのポイントや補強のポイントなどが顕かになっているはずですから、その辺りもしっかりと組み込んで、学びを仕上げ（紡いで）ていきます。



1st Zone のテーマ

『受け取る力』を広め、『放つ（表現する）力を高める』これが講座全体を通じたテーマです。そして1st Zoneでは、私たちが既に学び得ている、多くの知識や知恵が、向かいたい方向に稼働できるようにするために、それらの知識や知恵を再構築（知識のグラウンドの整備）を行います。

私自身の認識として、パーソナルカラー、カラーイメージスケール、各種カラーセラピー、ヌメロロジー、タロット、フラワーエッセンス、クリスタル、アートセラピー等々から提供される知識情報は、PCに例えるならば、後からインストールするソフトウェア（スマホならば、アプリ）のようなものです。それに対し、『セラピューティック・ランゲージ』は、そのソフトウェアを動かすためのOSのバージョンアップ（コンピューター本体の力をアップさせる）のようなものです。コンピューターの世界は人工知能の世界と言われますので、このように例えています。つまりは、『色彩言語の編集』は、あなたの情報処理力（受け取る力・解釈する力・放つ力）をアップさせることを目指す講座です。

『セラピューティック・ランゲージ編』では、とりわけ、コミュニケーションやヒーリング分野に関連した色彩言語『THINKING/シンキング/考案』力をの土台を築く（人によっては、底上げする、あるいは磨くとなるのかもしれませんが）ことをテーマとしています。

1st Zone の目標

コース全体を通じ、私たちが既に体得しているソフトウェア・アプリ（知識情報/目的別のツール）を、使用者1人1人の人間味が溢れるものへと、応用発展させることを目指しています。いわゆる実践力の形成です。1st Zoneでは、実践力の形成に必要とされる素地の整備（知識の整理・フォローアップ）に重点をおいています。基礎は何よりも大切ですから、楽しみながらしっかりと身につけていただきます。また、毎回、可能な限り、編集稽古の時間を設け、目的地向けた言葉の紡ぎ方を、身体の細胞レベルにまで浸透させていくことを目指しています。

各レッスンとも「Webレッスン」+「ライブクラス」のWレッスン形式を採用しています。全8回ととらえるか、全16回ととらえるかは、おひとりお一人にお任せすることにししましょう。なぜならば、それも一種の編集だからです。

受講生のコメント & フィードバック のご紹介

これまで数え切れないほどの講座を行ってきましたが、いわゆる体験談のようなものを書いていただくことは、滅多にありませんでした。が、今回は、書いていただいたのです。講座の名称から講座内容を連想しづらいコースにつき、是非、ご参考下さると嬉しいです。

A.K.さんの声

アロマセラピストでいらっしゃるA.K.さんは、そもそもは以下のようなお気持ちで受講に臨んでくださいました。

私がこの講座に参加しようと思った動機は、セラピスト・講師活動の基盤となる言葉の活用(選び・使い・聞く)を高めたいということでした。

なぜならば、今までセラピーのため様々なツールについて学んできたのですが、その知識を整理し、理解を深め、活用し、伝えていくために、「言葉」が大変重要なものと感じているからです。

私の仕事は、アロマセラピー講師とセラピストの2種類があります。講師は主に「伝える」立場であり、セラピストは主に「受取り・共感する」立場です。

立場の変化に伴い言葉の役割も変わりますし、時には言葉が不要なこともあります。

しかし、いずれにしても「伝える・受取る」というコミュニケーションであることに変わりはありません。その手段として自分の中に存在する言葉の量や質は、仕事の結果を左右する一因と考えています。

また、心理学やオーラ・ソーマのように、そのツールに慣れ親しんでいる人にも通じる独特の言い回しを、まだそれらに触れていない人にも理解しやすく伝える(言葉を置き換える)ということ々にも、トレーニングが必要だと常々感じていました。

「色彩言語を通して言葉を紡ぐ力を養う」ことは、ツールが色のみならず、精油や数字、クリスタルであっても、相手のレベルやその場面で求められる(又はツールが示す)次元に応じた、私自身の言葉を用いるセラピスト・講師活動のバックアップになると期待しています。

どうぞよろしく願いいたします。

そして講座半ばでお寄せいただいた声は以下のような感じでした。

おはようございます。以下、講座の感想です。

□初回のワークで頭の中をセッティングするの感じがまたいいなと思いました。20分くらいで、自分の考えを整理し、それを言葉で表現する練習が、とても役に立ちました。

□毎回の課題やワークでは、これまで蓄積した知識や経験を、色彩言語を通して見返しているような感じがします。その結果、まさにOSのバージョンアップがなされているように、それが日常の生活にも仕事にも反映されているのを感じます。今後、今までの知識を言葉として表現できるようになってきたら、色彩以外のツールも活用できるとワクワクしています。

□無意識のゾーンに溜められているモノの存在(習ったことも実は無意識に覚えていること)という気づきや、自分の思考のよりどころ、理解のしやすさ、自然に気づくこと、自分を感じ方・考え方も変わると感じています。

□WEBでもライブでも、ワークを通して他の参加者の方々の考え方や感情的反応のクセや偏りを知ることができると感じます。特にライブならではの楽しさがあります。

□会話中に言葉の意味にこだわると、含意がなくなることもありますが、この講座では、含意もあえて表現し、コミュニケーションの質が上がるように感じています。

長々と書きましたが、一言にまとめると、とても楽しかったです。残りレッスンもとても楽しみです！これからもよろしく願いいたします。

以上です。残りレッスンもとても楽しみです！これからもよろしく願いいたします。

(アロマセラピスト&ヒーリングサロンオーナー A.K.さん)

O.S.さんの声

色に関して、いつも熱心に学ばれる姿が印象的なO.S.さんからは、このような声が届きました。毎回、取り上げられている意味・キーワードが、20種類集まれば、いろいろな色が出てくるので、辞書を引くよりも、イメージを膨らませています。

(色彩検定対策講座修了、パーソナルカラーアナリスト養成講座修了、カラーセラピスト養成講座修了、オーラ・ソーマLevel 2 & PPSコース修了O.S.さん)

N.K.さんの声

「とにかく色が大好き！」という印象でいらっしゃるN.K.さんから、お寄せいただいた声です。

この講座を受講して一番に感じたことが、意識改革です(思考の改革はなかなかできません)。まだ講座は半ばなのですが、「色」に對して表面的な捉えかた、二次元的な捉えかた、立体的な捉えかた、実感が湧いてきた感じが、触れることができると感じています。

「色」と「人」がどのように今までの付き合いが、色を通して学んできたか、色を通して物事への理解が、受け取り方、受け止め方、理解の仕方、幅が広がったように感じます。元々コミュニケーションが少なく、思いが通じなかったように感じました。

「色」に関することを学び、調べて、みんなでシェアして、かみ砕いて、その中から体染み渡らせて行く感じでした。

これからの講座で、「色の意味」を理解すること、「人の営み」を理解することを進めていくと、どんな世界が待っているのか、と思うとワクワクします。色鮮やかに広がる感じだと、とても楽しみです。

(カラーセラピスト、オーラソーマプラクティショナー、パーソナルカラーアナリスト N.K.さん)

貴重な体験のシェアをありがとうございました。これを励みにますます精進し、洗練させながら進めていくことができるように努めます！

スケジュール

&more information

1st Zone

開講日
2013.10.10on WEB

ライブクラス日程
(全8回)
2013年10月～2014年5月
第3日曜日13:00～18:00

※諸事情により変更する
こともございます。
予めご了承ください。

受講料&お支払い形式
1) 77,000yen

★早期割引価格
72,000yen
2013.9.30までにお支払いの
場合

※いずれもゆうちょ口座へ
のお振り込みにてお願い
いたします。

申し込み期日
2013年10月5日



いずれの回も「Webレッスン」+ 「LIVEレッスン」のWレッスン形 式を採用しています。

Webレッスンは、所用時間2～3時間を目安
に用意されています。毎回のライブクラス終
了後に課題を提出します。その後2週間を目
安に課題を提出いただきます。グループメー
ルを利用したレッススタイルですから、お
一人お一人のペースに合わせたレッスンが可
能です。

このWebレッスン+LIVEレッスンの形式は、
この最近採用しているスタイルですが、学習

の進捗により影響を与えていることが一見し
て見受けられるため、今回のクラスも、この
形式にて行います。

『色彩情報の編集講座～セラ
ピューティック・ランゲージ
編～』は、どのようなセラピー
やヒーリングメソッドともバッ
ティングすることなく、むしろ
それらの価値を高めることを意
図してデザインされた、サポー
ト度の高いコースです。

inluce

色彩共生空間 イン・ルーチェ
-COLOUR & LANGUAGE WORKS-

inluce@7jigen.com

http://www.inluce-color-colour.com

phone : 0533-83-5308

お問い合わせ・お申し込みは

メールまたはお電話にてお気軽にお申し込みください。
1人でも多くの方のご参加をお待ちするとともに、
1人でも多くの方とシェアできますことを楽しみに
お待ちしております。

イン・ルーチェ 篠田カミィ

